



2017年5月6日

正徳寺 永代経

「永代経」^{えいたいきょう}は法要の名称です。未来永代にわたって仏さまの教えが伝えられていくことを願ってお勤めします。

今年も皆さまのおかげをもちまして、永代経法要を無事お勤めいたしました。

平成二十九年五月六日（土）

十一時 お斎（お昼の弁当）

十二時 法話

十三時 勤行

十四時 墓地管理規則説明会

例年通りいらした方々にお弁当をお出しし、お部屋にお上がりいただきました。お弁当は精進のもので、卵を使わず高野豆腐を使うなどしております。親鸞聖人は肉食を禁じておられますが、真宗も親鸞聖人のご命日や肉親の命日などに肉食をする「お精進」の風習がございます。今年は永代経法要は初めてという方も多くいらっしゃり、嬉しく思いました。

ご法話の今年の講師は、伊豆の国真宗大谷派 正蓮寺ご住職 渡邊元浄師にご出講いただき「お念仏のいわれと 念仏もうす身」をテーマにお話しいただきました。

「念仏は呼吸である」ということを、絵本『よかつたなあ、かあちゃん』（講談社）を題材にしながらわかりやすくお話しいただきました。「南無阿弥陀仏」と「呼」ばれる声を、我が身に「吸」って応える世界。その「呼」ばれる声に、我が身がどこに生きているのか確認できるのです。物柔らかな元浄師のお話を受け、会場は和やかな雰囲気でした。

正蓮寺さんでは、百種三百鉢の蓮と四十種百二十鉢の睡蓮を育てていらっしゃるそうで、7月には蓮まつりを開催なさるそうです。正徳寺にも、蓮苗のおみやげを頂きました。浄台蓮という大型の品種だそうです。現在、表の通りに面したところで育てております。お参りの際には、ぜひご覧ください。

「永代経懇志」は永代にお経が読まれ仏法が伝わるこの場が続くことを願いとしてお納めいただいています。皆さまの思いに心より感謝申し上げます。



本堂にてお経



渡邊元浄師による法話



伊豆正蓮寺にて渡邊元浄師と住職

であい

寄稿のページ①

寺はお坊さんの法話を聞くところ。そういうった向きもありますが、寺におりますと私たちが門徒の皆さんのお話を伺うことも多くございます。悩みを伺うこともあれば日常のことや取り組みなどをお話しいただくこともあります。

お話を伺ううち、これは皆さまにもお伝えしたいと感じることがあり、寺報でそのような取り組みができればと考えておりました。

その第一段として、門徒の山崎 仁様に今号に寄稿をお願い致しました。山崎様には、七年間携わっていらつしやるという日本語を教える地域ボランティアをテーマに寄稿いただきました。また皆さまに寄稿のお願いをさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。よろしくお願い申し上げます。



日本語のボランティア

山崎 仁

七十歳で仕事から離れ、社会との接点を保ちたいと考えて、日本語を教える地域ボランティア活動に参加しました。私どもの周囲には、私どもが想像する以上に多くの外国人が生活しており、難しい日本語に苦労しています。

世界には六千ほどの言語があるそうですが、日本語は最も難しい言語の一つだろうと思います。

先ず文字数が多い。ひら仮名とカタ仮名で百数字、常用漢字が二千百有余あり、音訓では四千以上に及びます。(英語はアルファベットの二十六文字のみです。)次に外国人生徒が苦労するのが「助詞」です。『リンゴを食べたい』と『リンゴが食べたい』を使い分けるまでにはかなりの練習を必要とします。そして「敬語」です。「食べる?」「食べますか」「召し上がりますか」と、相手・場面によって言葉が変わる日本語は何とも使い難いに違いありません。

斯くも難しい日本語ですが、生徒の『日本語を覚えたい』『喋れるようになりたい』との熱意と意欲は旺盛で、『大丈夫かな?』と心配するよう

なレベルでも、何とか挨拶が出来るようになると、時間給のアルバイトを始めます。そして職場で聞きかじった言葉を持ってきて、その意味と使い方を学習します。職場ではいじめに遭うこともあり、逆に関心から親切に扱われて、クラスに来て『日本の人は親切です』との報告を受けるところも嬉しくなります。

中には小さいながらも一企業の就職試験を受けて社員になった者、準看護師の資格を取って介護活動に従事しながら正看護師の資格に挑戦している者など、日本の社会に溶け込もうとしている生徒も育ちましたし、日本の歴史・地理を学んで三年後のオリンピックのガイドを目指している生徒もおります。そんな生徒たちの手助けをしているとの喜びがこの活動にはあります。

生徒が何とか日本語で話せるようになると少し長めの文章を読ませます。アクセントを直し、語感を覚えてもらうためです。読ませる文章は平易で、しかも良い日本語をとの気持ちから、小説家の文章が選ばれます。最近取り上げたエッセイは終戦時の実体験を語ったもので、空襲、防空壕、学童疎開など今では聞かれなくなった語句の解説に苦労しながら読ませていきます。終戦間近の

夏、小学校一年生になったばかりの妹が学童疎開先で栄養失調になり、やせ細って帰ってくる

話し…決して流暢りゅうちゆうな朗読にはならないが、読み進むうちに誰もが口ごもった語り口になり、最後には皆目じりを押さえている。そして一人が『日本でもこんな酷いひど（惨めなみじ）ことがあったんだ…』と呟きます。

この呟きを捉えて話を聞くと、中国の教育では戦時中の日本の軍人の非道ぶりが強調される余りに、戦争のもつ破壊と悲惨についての説明が疎かにされているのでしょうか。軍隊の背後にあった戦時中の日本の国民も、中国の国民と同様に大変な苦難を強いられたと言った状況は思ってもみなかった、と言うのです。『戦争は勝つても負けでも、背後にいる双方の国民が最も被害を受ける。だから戦争は絶対にやってはいけない』と答えます。

日本語を自由に操れるようになった生徒と「歴史」を語る…、これが日本語ボランティアに携わりながらの目標です。

声明会の様子

今回の山崎さまのお話いかがだったでしょうか。これからもご門徒のみなさまの社会福祉活動などを紹介できたらと思います。

山崎さまも参加されている「声明会（しょうみょうかい）」についてご紹介したいと思います。

「声明（しょうみょう）」とは、声に出してお経とこなを称えることです。せっかくお仏壇（お内仏）があるのですから、ぜひご自宅でもお経を称えてみませんか。

だいたい六月と十一月を節目として、最初からおさらいします。

最初の一時間はお経の練習をします。決して一人で当てたりしませんので、安心してください。終わるとお茶を飲みながら日頃の疑問を質問されたり、読んでいるお経の内容についてお話しをします。

お経の内容も漢文なので分かりづらいですが、実はお釈迦様と弟子の間答集になっていて簡単な内容のお話しが多いのです。その上で物語としての表面的なお話しと、そのお話しを通して何を伝えたいのかと言うお話しをします。

例えば『観無量寿経かんむりょうじゆきやう』というお経は、王子が王を殺し、母親の女王を幽閉するところから始まります。その幽閉された女王が、お釈迦さまに「なんで私はこんな目にあわなければならぬのか?!」と嘆くところからお話しが始まるのです。出家していない一般人がお釈迦さまに相談するお経なのです。面白いですね。これ以外にも色々なお経のお話しや、親鸞聖人がどのように受け取ったかなどのエピソードがございます。

参加される方は、正徳寺の門徒さんに限らず近所の有縁の方々もいらつしやいます。そのような方の中には、16時からのお経のお話だけ参加される方もいらつしやいます。ぜひ一度、覗のぞいてみてください。お待ちしております。

★墓地管理規則説明会を
開催いたしました

永代経法要後に、墓地管理規則の説明会を開催いたしました。この管理規則は、正徳寺に墓地をお持ちの方を対象に昨年郵送でお届けしております。もしお手元に届いていない場合には、お手数ですが寺までお問い合わせください。

この規則は、皆さまに安心してお参りいただくため、また正徳寺が皆さまと共にお墓をお守りしていくために制定いたしました。説明会当日にお配りした要旨を同封しております。どうぞご確認ください。

当日は何かの方から、ご相談を承りました。お墓のことは皆さまそれぞれ事情も異なり、一概にこうとは申せません。不安や疑問などは遠慮なくお伝えいただければと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

★本堂での葬儀のご案内

一般の会葬者がいない、いわゆる「家族葬」を、行事期間中をのぞいて本堂でお受けできるようにになりました。

今までもご相談により少しづつお受けしては参りましたが、お身内のみでの通夜葬儀をとのお話を伺うことが増えましたので、この度皆様にご案内致します。

お葬儀も多種多様になってまいりました。各ご家庭に合わせたやり方で故人を見送る一助となりますよう願っております。

斎場と異なる点も多くございますので、本堂での家族葬は、寺指定の葬儀社に限らせて頂いております。詳しくは寺までおたずねください。



★法要後のお斎（おとき）のご案内

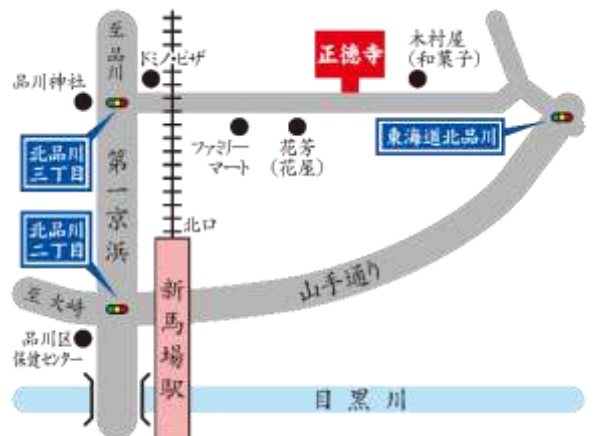
法要後の会食に、寺の部屋をお貸しできるようにしました。

会食にお使い頂けるお部屋が一部屋のみですので、一日に一組のみの受付となります。ご予約を希望される場合は、寺までお問い合わせください。人数は十六人までお使いいただけます。

また仕出しの業者は、寺で二社に指定させていただいています。寺の窓口にお料理のパンフレットがあります、ご入用の際にはお声かけ下さい。



写真はゆったり 10 人ほどでお座りいただいた場合のものです



〒一四〇—〇〇〇一

東京都品川区北品川

二丁目九番二十六号

真宗大谷派

日夜山 正徳寺

TEL・FAX

03・3471・3938

MAIL

Shoutokuji@opal.dti.ne.jp

Facebook

真宗大谷派日夜山正徳寺